行部に古墳があった!?

西浦遺跡からは埴輪の破片が多数見つかっています。埴輪は古墳に用いられるもので、一般的な集落から出土するものではありません。なぜ西浦遺跡から埴輪が出土するのでしょうか。いくつかの可能性が考えられます。

①案：西浦遺跡で埴輪を生産していた
②案：別の場所で作られた埴輪が西浦遺跡へ運ばれ、集積されていた
③案：西浦遺跡に古墳が存在した

三つの案の中で有力だと思われる仮説は、③案の古墳存在説です。

③案を補強する資料として、『神三郡神社参詣記』（以下、参詣記）をご紹介しましょう。参詣記は、明治初頭に伊勢の住人である世古口藤平によって記されたもので、「神三郡（しんさんぐん）」と呼ばれた多気郡や度会郡などの神社を巡った際の記録です。参詣記には行部に関する記述もあり、次のような押紙が添付されています。

「**行部村西のはし**の山を田地ニおこしたる処、**大刀并ニ色このキ物くた竹位の青色のせと物あり**、大刀ハ**納願寺の金毘羅山**へ納ありと、又此西ニ小川あり、其西の畑ケニ城筑山城立山といふて、其畑ノ処ニ**小サキ塚あり**」

この記述から、①遺跡が行部集落の西端に位置すること、②古墳の副葬品の可能性がある大刀などが出土していること、③「小サキ塚」が古墳の墳丘であるかもしれないことが考えられます。これらのことから、西浦遺跡にはかつて古墳が存在していた可能性が高いと思われます。しかし、畑を作るためなどの理由で、古墳は削平（さくへい）され土器や埴輪も壊されてしまったのでしょう。

しかし、仮に行部に古墳があったとすれば、明和町内で最も海岸部に近い古墳であると言えます。西浦遺跡は、伊勢湾に近いだけでなく、「大淀」や「的潟（まとかた）」といった古代の良港も近距離にあります。また、遺跡のすぐそばを祓川が流れ、川を遡上（そじょう）すれば内陸部との物資輸送の中継点になれます。

西浦遺跡の発掘調査については、出土した遺物資料を今後さらに整理を行い、海上交通との関係についても視野に入れ、遺跡の性格など調査を進めていきます。

納願寺境内の金毘羅堂
（天保八年（1837）建立）

『船形埴輪と古代の喪葬　宝塚一号墳』南伊勢の主要古墳分布図を一部改変

この資料は、企画展「明和町の海と遺跡」（平成 29 年 7 月 22 日～ 8 月 30 日）の開催に合わせて作成したものです。

発行　明和町斎宮跡・文化観光課（三重県多気郡明和町大字馬之上 945 番地）初版
電話 : 0596-52-7126/FAX: 0596-52-7133/E-mail : saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

明和町文化財解説シート

明和町の海と遺跡　No.2

明和町は平成 26 年度に福祉施設建設に伴い、行部に所在する西浦遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査では縄文土器や埴輪片など注目すべき資料が出土したほか、さまざまな時代の土器が見つかっており、遺跡周辺で縄文時代から人びとが絶えず活動していたことが分かってきました。

＜調査体制＞

■調査箇所：多気郡明和町大字行部字西浦
■調査主体：明和町
■調査担当：斎宮跡・文化観光課文化財係
■調査期間：平成 26 年 7 月 17 日～
9 月 5 日
■調査面積：約 348 ㎡

調査区全景（北西から）

西浦遺跡は行部集落の西端、小字西浦に所在しています。調査地は国道 23 号バイパス線の行部交差点から北東に 200mほどの地点で、標高は約 3mです。行部の集落は全体が砂堆（さたい）の上にあり、かつて伊勢湾に面した海岸線であったと考えられます。周辺の水田などと比べると約 1 ～ 2mほど高い部分に集落が立地しています。

調査風景

＜発掘調査で発見された遺物＞

西浦遺跡の発掘調査からでは、さまざまな時代の物が出土しています。
主な資料をご紹介しましょう。

※星印は西浦遺跡で出土しているものの時代

【縄文時代】

深鉢（里木Ⅱ式）

縄文土器の深鉢（ふかばち）です。縄文時代中期後半頃（およそ 5000 年ほど前）のものです。

遺跡の中でも最も古い時代の出土品で、現在の地表面からおよそ 1.2m掘り進めた砂層から出土しました。縄文時代の資料は、この深鉢１点だけですが、はるか昔から西浦遺跡周辺で人々が活動していたことが知れます。

明和町を含めた櫛田川流域でこれまでに出土している縄文土器の中で最も伊勢湾に近い場所で見つかった資料です。縄文時代中期には、周辺の平野部でも遺跡が増加する傾向にあり、当時の人びとの動向を知る上でとても貴重です。

【弥生時代】

弥生時代に関する資料として、弥生土器の破片が数点見つかっており、弥生時代中期のものと思われます。

【漁労具】

漁業に用いた土製のおもりです。真ん中に穴があいており、網に繋げて使っていました。遺跡の周辺には祓川があり、伊勢湾も近いことから、当時の人々も漁をしていたのかもしれません。

【古墳時代】

古墳時代の埴輪の破片です。

遺跡からは円筒埴輪（えんとうはにわ）の破片や形象埴輪（けいしょうはにわ）と呼ばれる人や動物・建物の姿をかたどった埴輪の一部が見つかっています。残念ながら形象埴輪については、出土資料が破片のため具体的なモチーフは不明です。

埴輪片には、在地の技術で製作されたものの他に、大阪の淡輪（たんのわ）地域に由来する外来の技術を用いて製作された「淡輪系埴輪」が含まれています。淡輪系の埴輪については、これまでにも三重県内で出土事例がありますが、松阪市より南の地域では見つかっておらず、西浦遺跡の資料は県内で最も南の事例といえます。埴輪製作に関わる技術の伝播（でんぱ）を考える上で重要な資料です。

円筒埴輪

須恵器（すえき）（左）と土師器（はじき）（右）

※円筒埴輪（イメージ）

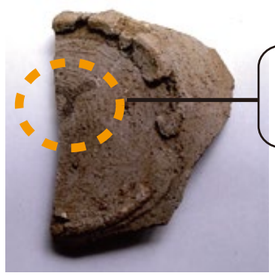
「淡輪系埴輪」
底部外面が凹んでいることが特徴

「淡輪系埴輪」の底部

【中世】

鉄製品と鉄滓（てっさい）

鎌倉時代以降では、土師器や山茶碗（やまちゃわん）など日常生活に用いる土器が多く出土しているほか、中国から輸入された青磁（せいじ）や白磁（はくじ）、墨で字が書かれた「墨書（ぼくしょ）土器」、また釣針や釘などの鉄製品が出ています。



山茶碗（墨書土器）

青磁・白磁

旧石器時代

縄文時代
約 12000 年以上前～

弥生時代
約 2800 年前
－2300 年前～

古墳時代
約 1700 年前～

飛鳥時代
約 1400 年前～

奈良時代
約 1300 年前～

平安時代
約 1200 年前～

中世
約 800 年前～

近世